

「真夏の祭典！ 3.5時間の激走」



見事”定位置”に帰ってきた #14

K 耐久東海シリーズ第3戦は、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにて行われ、28 台の参加者が真夏の決戦に臨んだ。

この第3戦と、次回の第4戦はサマースペシャルとして、いつもより30分ほど長い3.5Hとなっており、いつも以上の”アツイ戦い”が期待された。

午前中の天気予報は晴れ、午前9時のサーキットにはすでに一足早くフルスロットルにした太陽が各車の出番を待っている。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

開幕から2戦を終えて戦は昨年タイトルを争った、#14「ガレージシヤマTTストウディ」と、#100「HAC もらいものビート」が40Pで並び早くも激戦の様相を呈している。いつもより獲得ポイントが多いサマースペシャル、この第3戦でシリーズの流れを掴めるか注目。

■予選

予選クラストップは#14「ガレージシヤマTTストウディ」1' 09.983で、今シーズンクラス最速を更新。2番手には#34「JK ガチャピントウディ」1' 11.297で今季自己最高、3番手#100「HAC もらいものビート」1' 11.556で続き、4番手には初参加の#12「ファニススピードビート」が1' 11.835がつけた。

以下5番手には、予選前フリー走行中にストップした#717「Team Jatsun アルト」がタイム計測には間に合い1' 13.050を記録、6番手は第2戦優勝の#35「JKレーシングユーロビート」1' 13.398、7番手#97「マツハ滝浪トウディ」1' 17.815、9番手には初参加の#83「FLUX 汚友達ミラ」が1' 17.815、最後尾はこちらも初参加#47「チームリベロよなよな会エッセ」が1' 22.587で全車予選を通過。

■序盤

義務ピット解禁前は各車純粋な速さ比べ、#14「ガレージシヤマTTストウディ」を先頭に#100「HAC もらいものビート」、#12「ファニススピードビート」、#34「JKガチャピントウディ」、#35「JKレーシングユーロビート」、#97「マツハ滝浪トウディ」が続く。新規格マシンは少し苦しいか、7番手#47「チームリベロよなよな会エッセ」、#83「FLUX 汚友達ミラ」、#717「Team Jatsun アルト」。

■中盤

中盤はピット戦略が交錯しての混戦模様、1時間半過ぎでは、ピットインを遅らせる戦略で#100「HAC もらいものビート」がトップに立ち、#14「ガレージシヤマTTストウディ」がそれを追う。それを追うのはかわいいふりしてやるんですとばかり#34「JKガチャピントウディ」が続き、後方から追いつけてきた#717「Team Jatsun アルト」、#12「ファニススピードビート」、#35「JKレーシングユーロビート」など新旧規格が僅差の争いで日差しに負けないヒートなバトルを展開。



3戦連続2位でポイントも2位 #100



初参加で表彰台 #12



シリーズは3位に浮上 #717

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

いつもなら終盤ともいえる2時間を過ぎだが、この日はまだ中盤。#14「ガレージイシヤマTTストウディ」と#100「HAC もらいものビート」が同ラップでつばぜり合い、3番手争いも#34「JK ガチャピントウディ」と#12「ファニススピードビート」も同ラップ、中団も#717「Team Jatsun アルト」を頭に3台が連なる。

2時間半を過ぎても混戦は続き、#14「ガレージイシヤマTTストウディ」が109Lapを走れば#100「HAC もらいものビート」も1Lap差で追いかける、さらに#35「JKレーシングユーロビート」の105Lapから#34「JKガチャピントウディ」、#12「ファニススピードビート」までが1Lap差にひしめき中団の争いも激化、さあ残すは最後のステイントのみ。

■最終結果

9台の混戦バトルを制したのは#14「ガレージイシヤマTTストウディ」、開幕戦優勝以来の栄光を手にした。2位は#100「HAC もらいものビート」で、3戦連続2位、3位には#35「JKレーシングユーロビート」が入ったものの、最低重量不足となり章典外、かわって初参加の#12「ファニススピードビート」が嬉しい表彰台。以下4位#717「Team Jatsun アルト」、5位#47「チームリベロよなよな会エッセ」、6位#83「FLUX 汚友達ミラ」と新規格車が続き、7位#97「マツハ滝浪トウディ」、8位#34「JKガチャピントウディ」となった。#97と#34はSC導入時の黄旗走行中のスピン等の危険走行があり、それぞれ3周と1週の減算となった。

■総評

”定位置”に帰ってきた#14「ガレージイシヤマTTストウディ」が30Pを加算してシリーズを一気に有利に進めるかと思いきや、#100「HAC もらいものビート」も、3連続2位で5P差で食らいつき流れを渡さない見ごたえのある展開となった。雨などの要素がない場合は少々苦しい新規格勢だが、しぶとく走ってのポイント獲得は耐久の醍醐味。

次回もサマースペシャルで、ポイント増量なのでここそが天王山と言える戦いとなるに違いない。



新規格で健闘 #47



こちらも新規格 #83



3周減算は痛い #97



予選は2位 #34



最低重量不足で章典外 #35





今季初優勝 & ランクトップは嬉しい #66



ペナルティがなければ・・・ #60



しぶとく走って 3 戦連続表彰台 #225



KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

開幕戦優勝の新規格軽 #81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」も出場し、現在チャンピオンシップを争う6チームがエントリーした。まさにタイトルの行方を占う一戦となるはず。

■予選

予選トップは #3「周平ビートご声援ありがとうございます」1' 08.197、すぐ横には現在ポイントリーダーの #25「アカミネコマル 2 トウディ」、1' 08.668 が付ける。3 番手には #60「明智自動車スペシャルトウディ」が 1' 09.194 で、その後ろには #225「ぐつつち松本車体ビート」が 1' 10.044 とどのチームも譲れない。5 番手は #66「IMWトウディ」1' 11.886、6 番手 #81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」1' 12.844。サマースペシャルはポイントも多いため、ランキングが大きく変動する可能性もあり、見逃せない一戦となった。

■序盤

スタートで首位に立ったのは、#3「周平ビートご声援ありがとうございます」、それを #25「アカミネコマル 2 トウディ」、#60「明智自動車スペシャルトウディ」が追走、さっそくつばぜり合いが始まる。#225「ぐつつち松本車体ビート」、#66「IMWトウディ」、#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は第 2 集団を作り上位進出を狙っている。

■中盤

中盤快調に飛ばしている #60「明智自動車スペシャルトウディ」1 時間過ぎには総合でもトップに立つ。だが、好事魔多し、ピットロード速度違反のペナルティを見落として警告を受けてしまう。（最終的には 1 周減算の処分）代わって上位争いに絡んできたのが #25「アカミネコマル 2 トウディ」と #66「IMWトウディ」。ともにポイント争いでも僅差の争いのチームで、負けられない。

2 時間経過では #66「IMWトウディ」がトップ、2 位 #60「明智自動車スペシャルトウディ」、3 位 #3「周平ビートご声援ありがとうございます」、4 位 #25「アカミネコマル 2 トウディ」、5 位 #225「ぐつつち松本車体ビート」、6 位 #81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」というオーダー。

■終盤

2 時間 30 分経過での周回数はトップ #66「IMWトウディ」110Lap、2 位 #60「明智自動車スペシャルトウディ」108Lap、3 位 #225「ぐつつち松本車体ビート」107Lap、4 位 #3「周平ビートご声援ありがとうございます」107Lap、5 位 #81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」104Lap、6 位 #25「アカミネコマル 2 トウディ」103Lap、#25 の周回が伸びてこないのが気になるが、まだゴールまでは 1 時間を残しており、何が起こるか予測不可能。

思わぬトラブルや、コンディションの変化に十分気をつけながら、マシンをゴールへと運んでいく。

義務ピット終了時間も迫った頃、他のクラスのマシンがクラッシュでこの日初めての赤旗中断、ストレート上で各車整列。ところがこのマシンを救出するのに思いのほか時間がかかる。コースクリアで SC による先導が開始された時には、義務ピット閉鎖後で何台かのマシンは義務ピットをこなせないことに・・・。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

3.5Hの熱闘を制したのは、#66「IMWTウディ」で今季初優勝で、シリーズランキングもトップに浮上。2位は#60「明智自動車スペシャルウディ」、1周減算があつての1Lap差、なければあるいはいと思うと少々残念か。3位は#225「ぐっち松本車体ビート」でこちらはランク2位をキープ。

4位は#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」、5位は今一つ不調の#25「アカミネコマル2トウディ」で、終盤にコースアウト・レッカーされて順位を大きく落としながらも何とか完走、シリーズポイントは一歩後退の3位に。

4位相当の周回数をこなし#3「周平ビートご声援ありがとう号」だったが、義務ピットイン消化不足で、章典外という結果に終わった。



新規格で奮闘 #81

■総評

シリーズ争いの6チームが集めたこのクラス、前半戦終えて首位に立ったのは#66「IMWTウディ」65P、2位には6P差で#225「ぐっち松本車体ビート」、3位は一歩後退した#25「アカミネコマル2トウディ」が56Pでつけている。残念なのは#3「周平ビートご声援ありがとう号」で、ここでの無得点は痛い。とはいえ1位から6位までは37P差で、残りは2戦。さらに次戦もポイント増量のイベントなので、まだまだ混戦は続きそうだ。



翌日娘さんの結婚式だそうです #25



無得点は残念 #3



KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

このクラスはNAハイチューンエンジンを搭載し、軽量化も許されるいわゆる”改造車クラス”。台数は決して多くはないが、激戦が展開されるのが魅力。今回は4台のエントリーで少数激戦が予想される。

■予選

予選トップは、#23「チームミニトゥディ」1'05.757、前戦に続く連続奪取。予選2番手は#82「i-TECH ワコーズゼトウディ」、タイムは1'06.722。3番手は#38「デモリッションエグゼトウディ」1'07.870、4番手は少し調子が上がらないか#51「EUROUレーシングアルト」1'12.859。

■序盤

序盤順調に周回を伸ばすのは、#23「チームミニトゥディ」、それを#82「i-TECH ワコーズゼトウディ」と#38「デモリッションエグゼトウディ」が追う展開。予選4番手の「EUROUレーシングアルト」はやはり少しペースが上がってこない。#23「チームミニトゥディ」はピットインの関係で、#82「i-TECH ワコーズゼトウディ」にトップを譲るが、ここまでは極めて順調なペースを刻んでいる。

■中盤

中盤戦は#23「チームミニトゥディ」と#38「デモリッションエグゼトウディ」の一騎打ちの様相。2時間半を経過して、両車ともに113Lapと一歩も引ない。#111Lapと2周差でマークし、終盤の逆転にかける。新規格KNOマシン#51「EUROUレーシングアルト」は周回数が伸びない。

■終盤

最終盤となっても上位陣はデッドヒート、#23「チームミニトゥディ」と#38「デモリッションエグゼトウディ」は同一周回、82「i-TECH ワコーズゼトウディ」もその差かわらずぴったり追走、灼熱の太陽のもとジリジリとしたバトルが展開されている。

■最終結果

最後までトップを守ったのは、#23「チームミニトゥディ」。2位の#38「デモリッションエグゼトウディ」を11秒差で振り切った。3位#82「i-TECH ワコーズゼトウディ」も追走し、表彰台をゲット、#51「EUROUレーシングアルト」は義務ピットイン不足で章典外という結果に終わった。

■総評

ランキングは#23「チームミニ」が一步前に出た。が、#38「デモリッションエグゼ」も8P差、#82「i-TECH ワコーズ」も22P差と以前混戦だ。



開幕戦に続く今季2勝目 #23



ここは離されずについていきたい #38



初代トゥディといえども速い #82



新規格KNOマシンには期待 #51



初優勝おめでとう！！ #93



2年ぶりのタイトルを目指す #392



2戦連続表彰台 #330



暑さ対策はしっかりと

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

5台がエントリーのこのクラスにおいて3台のカプチーノ、濃度としてはなかなか“濃い”のではないだろうか。迎え撃つのは現在シリーズランクトップの#392「MRTm Zammers ヴィヴィオ」と、前戦リタイヤの雪辱に燃える#93「藤枝マリンダイビングアルト」。

■予選

予選トップは#392「Zammers ヴィヴィオ」1'07.211、2戦ぶりの勝利に向けて視界良好。2番手は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'07.298、トップとはコンマ087という僅差で横につける。3番手には#330「SiRiO カプチーノ」1'07.311とこちらもコンマ013でピッタリマーク、激しいバトルの予感がする。

予選4番手は前戦欠席の#133「SIT カプチーノ」1'08.953、5番手には4番手#112「白須賀会カプチーノ」1'11.888という予選結果。

本当にこのクラスのタイムは拮抗しており、毎戦激しい争いが見ものだが、サマースペシャル3.5Hのゴールの先で笑うのはだけか。

■序盤

まず義務ピット前のスタートから30分は、予選と全く同じオーダー。なんとこれは、義務ピット開始後の1時間経過でも同様で、K耐久東海シリーズにおいては珍しいこと。実力が拮抗していると、めまぐるしく順位はかわらなくとも、緊張感の高いバトルになるということか。しかしながらまだレースは三分の一すらも消化しておらず、先は長い。

■中盤

1時間半を過ぎても、#392「Zammers ヴィヴィオ」がトップをキープ、2位には#330「SiRiO カプチーノ」があがり、3位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」。4位には#133「SIT カプチーノ」がつけ、5位#112「白須賀会カプチーノ」。トップの#392は73Lapを消化し順調に首位をキープする。真夏の太陽が照りつける中ここまで目立ったトラブルのなくクリーンなレースだが、その裏での各チームの駆け引きやドライバーたちの高い緊張感が伝わってくるようだ。

■終盤

2時間半を経過しての順位は、#392「Zammers ヴィヴィオ」がトップで112Lapを記録、2番手は#330「SiRiO カプチーノ」で111Lap、3位#93「藤枝マリンダイビングアルト」も111Lapと、1周の中に3台が入り、4位#133「SIT カプチーノ」が109Lap、5位#112「白須賀会カプチーノ」105Lap。トップ争いは上位3台に絞られてきたか。

終盤まで順位変動が少かったこのレース、残り一時間で大きな変動があるのか、それは真夏の太陽でも見通すことはできない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最終的に勝利を手にしたのは、#93「藤枝マリンダイビングアルト」。終盤の追い上げで残り 30 分を切ったあたりに、同一周回に上がリトップに立つとそのままゴール、見事初優勝を逆転で飾った。

2位は惜しくも#392「Zammers ヴィヴィオ」、2戦ぶりの勝利はならなかったが、しっかりと 25 ポイントを獲得。3位はカプチーノの一角#330「SiRiO カプチーノ」が入り連続表彰台をゲット、実力派チームらしいレース運びを見せた。

4位#133「SIT カプチーノ」、5位#112「白須賀会カプチーノ」という最終結果。

■総評

予選トップながら優勝を惜しくも逃した#392「Zammers ヴィヴィオ」だったが、シリーズポイントを 70P まで伸ばしトップをキープ。念願の初優勝を飾った#93「藤枝マリンダイビングアルト」も 50P とタイトル争いに絡む勢い。112「白須賀会カプチーノ」も、5位ながらサマースペシャルのため 18P を加算して 48P で 3位につける。

残るラウンドは 2 戦、次回もサマースペシャル 3.5H という長丁場のレース、獲得ポイントも多く、ここを獲ったものがタイトルに大きく近づく、晩夏のスパに勝利の鐘を鳴らすのはどのチームか。



カプチーノ勢の一角 #133 は 4 位



ランキングは 3 番手で食らいつく #112



これも一つの暑さ対策





前戦 2 位より一つ上げて優勝！ #192

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

ハイパワーチューニングターボを搭載するこのクラスにおいて最大の敵は、暑さ。チューニングに対するノウハウが進んできた現在においては、かつてのように簡単にストップする光景はまれである。しかしドライバーにとっては厳しことは変わりなく、またマシントラブルも少なくなったとはいえ、細心の注意を払うことが必要で、一瞬たりとも気を抜けない。さあ灼熱のパラダイスへようこそ。

■予選

前戦で久しぶりの勝利を挙げた#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が総合PPとなる唯一の3秒台1'03.913で予選トップ。その横には#251「MDRスーパーカプチーノ」1'04.779が並びフロントローを獲得。さらに3番グリッドには#192「DXLメビウスアルトワークス」が1'05.707ぴったりとマーク。今回初参加の#10「HOT-K F5コペン」は1'06.336で5位、今回は「HOT-K」岡田編集長もステアリングを握る予定。前戦終盤でクラッシュを喫した#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が復活して雪辱戦に臨んだが、なんと予選でエンジントラブル、そうそうに戦列を離れることになってしまった。

■序盤

序盤の見せ場はいきなり訪れた、スタートでけん制合うフロントローの2台を、#192「DXLメビウスアルトワークス」が一気にパス、トップに立つ。まるでスプリントのようなこのスタートに、会場は大いに盛り上がる。序盤はこの3台が順位を入れ替えながら進み、まさに「アツい」バトルを繰り広げる。4番手は#10「HOT-K F5コペン」、耐久シリーズではまだまだ少数派のコペンだが、単一のイベントでは人気を博しているだけに、今後参加が増えてほしい一台である。

■中盤

序盤の三つ巴の争いから、#192「DXLメビウスアルトワークス」と、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」がじわじわと周回数を伸ばし、トップ2を形成し一騎打ちの様相に。一方3位争いは#10「HOT-K F5コペン」と#251「MDRスーパーカプチーノ」のオープンカー対決となっている。2時間半時点の周回数は、1位#192が117Lap、2位#777は116Lap、3位は#10で112Lap、4位#251も同一一周回の112Lap、トップから数えても5Lap差でつけている。

■終盤

義務ピット閉鎖時間も迫ってきた12時15分、#10「HOT-K F5コペン」を不運が襲う。なんとマシントラブルからリヤタイヤが外れるというアクシデント。幸いにしてドライバー等は無事だったが、これにより赤旗中団、マシンの回収作業を行う。残念ながら、#10「HOT-K F5コペン」はリタイヤとなった。原因は暑さという訳ではないだろうが、最高気温34度を記録したこの猛暑の中では何が起きてても不思議ではない。最後の最後まで気の抜けないのがレース。



シリーズ争いは優勢に進める #777



2戦連続表彰台 #251



Race Report



■最終結果

真夏のサマースペシャル 3.5Hを制したのは#192「DXLメビウスアルトワークス」、このマシンとなっては初めての勝利を手にした。2位は#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、1Lapを詰め切れずの2位だが25Pを獲得し、シリーズ首位を堅持。3位は#251「MDRスーパーカプチーノ」で2戦連続の3位表彰台となった。リタイヤとなった#10「HOT-K F5コペン」だが、完走Lap数は走っていたが、義務ピットに入ることができなかったために章典外となった。

■総評

シリーズ争いは、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が67Pで2位、#251「MDRスーパーカプチーノ」に23Pをつけてトップ。3位には#192「DXLメビウスアルトワークス」が50P、スタートできなかった#32「爆走あばれ馬 project」は痛い無得点で40P変わらず4位に後退となった。

だが、次ラウンドもサマースペシャル 3.5H、1位には30Pが加算される、現在上位を行くチームにも、何が起こるか分からない、まだまだ夏は終わらない。



義務ピット不足で章典外 #10



編集長の激走も実らず

